

## 2022 年度 学校関係者評価 報告書

学校法人創造社学園  
創造社デザイン専門学校  
学校自己評価部会  
学校関係者評価委員会

学校法人創造社学園、創造社デザイン専門学校創造社デザイン専門学校・学校自己評価部会学校関係者評価委員会は 2022 年度、学校自己評価報告書に基づいて学校関係者評価を実施し、以下の通り報告します。

### 1. 学校関係者評価の実施方法

学校関係者評価は、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づく評価項目に沿って、学校法人創造社学園及び創造社デザイン専門学校の職員で構成する学校自己評価部会が実施した「学校自己評価報告書」について、企業実習引受先デザイン企業及び本校卒業生（デザイン事務所代表）の学校関係者評価委員による評価を行って頂いた。各評価員には、事前に学校自己評価報告書とその関連する資料等を配布した上で意見を聴取し、評価委員事務局が内容等について要約の上、学校関係者評価報告書として取りまとめた。

### 2. 学校関係者評価委員一覧

	委員氏名	所属機関・事業所	委員・役割	分野
1	岡 哲也	株式会社I&L アライバー 代表取締役	会長・企業等委員	ビジュアルデザイン業界
2	杉山 陽二	(有)サカデザイン・プロダクト 代表取締役	企業等委員	産業デザイン業界
3	松田 祥宏	スタジオミーツ 代表	企業等委員	ビジュアルデザイン業界
4	上田 寛	株式会社 登プリント	企業等委員	ビジュアルデザイン業界
5	金指 博文	デライトラボ 代表	企業等委員	産業デザイン業界
6	北野 ちあき	株式会社Ilファクトグラフィックス 代表取締役	卒業生等委員	ビジュアルデザイン業界
7	川畑 大助	ダフィ・デザイン 代表	卒業生等委員	産業デザイン業界
学校関係者評価委員 事務局				
1	松村 眞吾	学校法人創造社学園 学校本部長	評価委員会事務局	事務局

### 3. 委員会次第（概要）

開催日：2023年6月2日（金）

(1)開会

(2)学校本部長挨拶

(3) 学校評価に係るプロセスと活用について説明

事務局から、本学園の学校評価の目的や必要性及びその活用方法について説明を行った。

(4)学内評価の差異についての説明

事務局から、学内評価者の評価の差異についての説明とその課題について

(5)2022 年度 学校自己評価報告

2022 年度に定めた目標と重点的に取り組んだ計画の説明を行い、学校自己評価項目 1～11 の課題、改善の方策、取組状況等を報告した。

(6)討議・意見交換

各評価委員会から学校自己評価報告書の各評価報告に対するご意見やご指導をいただいた。又、これらの評価を教科課程編成委員会へ繋いでいくことを報告した。

(7)閉会

### 4. 評価項目ごとの学校関係者評価委員の評価と意見

	評価項目	委員 評 価 コメント
1	教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業実習の全学生必修としていて、1年次から履修することは良い。特に学生自身に企業実習先の希望をとりアプローチする点が、学生の意欲は就業先へ繋がる取組みとして効果は上がると判断する。</li> <li>教科課程の毎年バージョン Up する体制が良い。特にデザインにおける業界は、IT, AI などにより変革していているので、絶えず時代に合わせたプログラムを提供する必要がある。</li> </ul>
2	学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画とその成果の振返りがきっちりと文章化されている。</li> <li>ISO29993 に基づき、トップコミットメント、から事業計画にいたるプロセスは明確にされている。成果に対して PDCA をもっと多く取り入れた方が良い。</li> <li>WEB 上で、情報公開について広報されているし、だいぶ見やすくなった。特に頻繁に更新されている所、又 SNS と学校ホームページの展開を拡げた方が良い。特にターゲット層は、スマホなど見ることが多いので、情報りょうをもっと精査した方が良いと感じる</li> </ul>

3	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎年、貴校の公開プレゼンテーション会に参加していますがソーシャルな課題をテーマに社会に向けて提案しているのが良い。単純にアウトプット型のデザインではなく、仕組みから提示されているのが今の社会に合致している。</li> <li>• 授業の一環としてプレゼンを必須として行っていることが良い。学生のプレゼンテーションの訴求力が高まっていると思う。</li> <li>• 企業実習（インターンシップ）は、1年からの企業実習があることにより、本人の学習目標や不足する技術などが明確になり、2年へ繋がられるシステムがとても良い。就職先や就職先開拓も含め業界との連携をこれからも拡充してほしい。</li> <li>• 卒業試験に第三者審査を取り入れているところが良い。特に第三者評価を教育に評価することは特に効果があると思う</li> <li>• 企業クライアント制の取組みが良い。実際に商品化や採択されている率名を見ると、とても効果的と判断する。ビジネスとしてのデザインを学ぶ機会として、今後も多く取り入れて欲しい。</li> </ul>
4	学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デザイン業種への就職率は85%を超えていることは非常に評価は高い。デザインの領域は広がっているので、デザインの活躍する非デザイン業種にも展開してってもらいたい(特にコンサルティングやITソリューション)</li> <li>• 退学率の低減の為他チーム担任制のシステムが良い。進学率が90%超えていることは、それだけ学生の満足度も高いと判断できる。今後も学生の目的を達成するために、上手くキャリアパスを描いてほしい。</li> </ul>
5	学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学費軽減する様々なシステムは良い。特に、再教育は益々増えていくので、より一層の奨学制度や付加価値を高めてほしい。</li> <li>• 卒業生で活躍されている方は多くおられるので、もっとOBとの連携が広がっていく運営を高めてはどうか？ 特にOBはこの学校で学んだことを社会で実践している良いモニターとなるので。</li> <li>• 学費の支援体制（公的・私的）が拡充されているのが良い。昨今の世帯年収から考えると経営に影響ない程度に支援が必要と考えるし、公的制度の拡充も検討してほしい。</li> </ul>
6	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 工房講座（毎日講座）の取組みが面白い。特に体感的なインスピレーション醸成の場は、クリエイターにとって重要だし、学生自身がリクエストするシステムも良い</li> <li>• 企業実習先の選定に学生自らが行きたい研修先を決めているところが面白い。学校が宛がうのではなく、学生自身が企業先を考えることは、学びの目標にもなる。</li> </ul>
7	学生受入募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>• デザインの認知を高める活動として、様々な著名人のや等身大のOBデザインセミナーは良いと考えています。在校生だけではなく、様々な方が参</li> </ul>

		<p>加できるようになっているので、デザインとは？何かということ。これからも拡げていってほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 学費は適正と思う。特に昼間部でも学費が安い学科設置されてるので入学志望される方に選択の幅があって良い。</li> <li>• 高等教育無償化の制度の対象校となっているのは良い。</li> <li>• 流行の分野に捉われず、デザインと産業を密接に考えている学科・専攻構成は良いと考える。ただ、デザイン業界は、分野の垣根がなくなってきているので、その点を考慮するプログラムも拡充することも必要。</li> <li>• 学生募集は、今後も益々規模しくなる。その上で如何に他校にない魅力づくりが大切。</li> </ul>
8	財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>• WEB ページで財務状況が公開されているので問題はない。</li> <li>• 学校の事業報告書も整備されているので、こういった事業が行われているか WEB 上で明示されている</li> </ul>
9	法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 法令順守は当然ことで、今後も一層の法令順守をお願いします。</li> </ul>
10	社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 地域の学校や行政等の事業に積極的に参画していることは良い。</li> <li>• 企業課題として地域連携（地域活性化・町おこしなど）していることが良い</li> <li>• SDGs の取組みも良い</li> <li>• 職業訓練も採択を受けているので、今後のリスクリングにも目を向けて欲しい</li> </ul>
11	国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コロナ化で中止されたのは残念ですが、仕方がない</li> <li>• 来年度は実施するという事なので、今後も展開してほしい。</li> </ul>

## 5.学校関係者評価 全体的な総括

評価項目	評価
総評	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 創造社デザイン専門学校の教育、教育システムは業界でも評価が高い。特に学生が提示する作品、指導内容、課題設定から、ビジネスとしてのデザイン提案となっている点が良い。社会や業界との連携も活発である。企業クライアント制など、年間 30 社以上の外部企業・団体の課題に対して学生が提案している数がとても多い。採用や商品化されているのも多く実学として機能していると思う。</li> <li>• 卒業試験に第三者評価も取り入れている点は、評価する。特に外部の有識者の眼を入れることで、デザインの質が向上すると思う。これらを今後も拡げて欲しい点と、もっと通常のデザイン作品を学外に出せばよいと思う</li> <li>• それと、次世代のデザイナー育成に業界と共に開発を進めていってほしい。</li> </ul>

	<p>企業実習も全学生への必須になっていることや進級・卒業試験の外部審査員制の導入、又、多くの外部の有識者との開発環境・連携体制が整っている創造社には、新たなビジネス教育（リリスクリング：学び直しなど）として確立できれば、とても良いと考える。 今後はネットマーケティングも重要になってくるので、そういった知識やスキルが必要と思う。</p> <p>社会の変革、ChatGPT や生成系 AI の発展など、益々と社会は変化しており、デザイナーの職域も広がっていくので、そういったテクノロジーを活用できるデザイナーの育成も力を入れて欲しい。</p>
--	---

以上